

3か年計画

ともに拓こう、協同が輝く時代

期間／平成29年3月1日～平成32年2月29日

基本目標・重点目標・施策

1. 農家組合員の農業所得の向上に取り組みます
- ① 生産組織を通じて個々の農業経営と産地力を維持・向上します
- ② 「農の駅」を通じて元気な農業に取り組みます
- ③ 中山間地農業等多様な農業経営を支援します
- ④ 生産から販売を通じたトータルでのコスト削減に取り組みます
- ⑤ 総合事業を活かして農業者の経営発展を支援します

2. ぐらしの豊かさの実現に貢献します

- ⑥ 総合事業をぐらしに役立てます
- ⑦ 協同活動を通じて、暮らしやすい地域づくりに取り組みます

3. JAの健全な経営に取り組みます

- ⑧ 組合員の意見反映と仲間づくりを進めます
- ⑨ JA経営の健全性確保に努めます

自己改革への取り組み

「農家組合員の農業所得の向上」、「地域社会への適切なサービス提供」を実現するため、経営資源を有効活用し、自己改革をすすめていきます。

取り組み状況

平成28年度は、市場ニーズに対応した荷姿での有利販売や生産者の栽培負荷の軽減、規模拡大に向けて苺パッケージセンターの拡張を行いました。地域振興作物の開発にズッキーニの試験栽培に取り組み、産地化に向けて出荷栽培講習会を開催しました。また、組合員や地域の皆さまの相続や年金相談等に対応するため田中支店に県下初の金融相談センターを併設しました。



拡張された苺パッケージセンター



平成28年4月にオープンした金融相談センター

組合長あいさつ

平成28年度は、1年を通じて不順な天候に見舞われ、皆さまには農作物の栽培管理に大変ご苦労が多かったことと思います。しかし、農家組合員の皆さまの高度な栽培技術とご努力により、高品質な農畜産物の生産と出荷に努めていただいた結果、JA伊豆の国の農産物の取扱高も昨年度に続き50億円を超える52億6千万円と大きな実績を上げることができました。

営農面では、今年3月に「静岡水わさびの伝統栽培」が日本農業遺産に登録され、現在は国・県の行政機関をはじめ関係機関の方々のご尽力のもと国連の世界農業遺産登録に向けて準備を進めていただいております。JAとしても、日本農業遺産登録を契機に産地のPR、知名度アップ、さらなるブランド化、そして販売促進・消費拡大へと結びつけるために、関係機関と共に活動していきたいと考えています。

日本農業や農業協同組合を取り巻く情勢は、TPP協定の発効は実質的に無くなったものの、それに代わるアメリカとの2国間の自由貿易交



代表理事組合長
鈴木正三

渉やEU（ヨーロッパ連合）との経済連携協定の交渉などが前面に出てきており、国内農畜産物の生産現場への大きな影響が懸念されます。今後とも注視すると共に、全国のJA組織と共に足腰の強い国内農業の確立を目指して政策要求をしていきたいと考えています。

また、子会社ジェイエイ・メモリアルセンターにおいては、葬儀施行能力の質的向上と相談機能の充実を図り、利用者の皆さまの負託に応えられるよう努めてまいりました。

平成29年度は、今期から始まる3か年計画「ともに拓こう、協同が輝く時代」をメインテーマに掲げ、農家組合員のさらなる農業所得の向上、ぐらしの豊かさの実現への貢献、そして、JAの健全な経営に、役員一丸となつて取り組んでまいります。